

近年は放置竹林が問題となっており、森林環境の悪化、里山景観の変化、有害鳥獣被害の多発、山林災害の危険、水源の涵養機能の低下など様々な問題を抱えていることから、竹資源活用型産業創出アクションプログラムを策定し竹資源の有効活用が図られています。その一環として世界初と言われる竹からの発電施設である宮津バイオマスエネルギー製造事業所を建設されましたが、事業として採算が取れるようにするには、今後施設の改造が必要であるのとこのことでした。

荒廃した竹林を整備することにより、森林環境が改善され、更には海の環境改善もつながり、自然の形態が守られることとなります。このことは、森林面積が約7割を占める本市においても大変重要なことで、宮津市の取り組みは大いに参考になりました。

長岡京市の代表的な景観である西山は、かつて燃料となる薪や柴を作る薪炭林として利用され、昭和45年に開催された日本万国博覧会では日本館の内装材として使用された西山ヒノキの産地です。昔はマツタケが採れ、ヤマモモは御所に献上していたこともあるそうで、人々の生活と西山は密接に関わっています。

生活環境の変化により森林の荒廃

と機能低下が進み、多様な植生が消失していることから、平成17年3月に西山に関わる全ての関係者が主体性を持って参画した西山森林整備推進協議会が設立され、森づくりが取り組まれています。

翌年には、西山の森の整備や保全を総合的に進めていくための西山森林整備構想が策定され、人工林・広葉樹林・竹林等の整備、林道・作業道等の基盤施設整備、キャンプ場周辺の整備や里山の施業体験などが進められています。

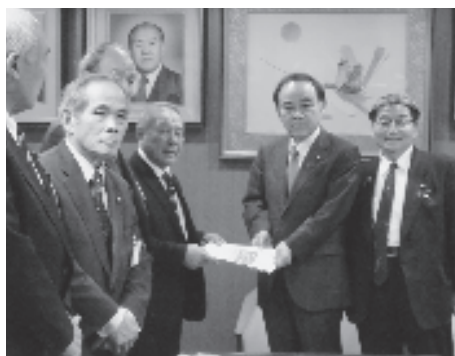
構想の策定後、害虫によるナラ枯れの発生とシカやイノシシによる森林被害の増加が新たな問題として浮上し、今年、整備構想の改定が行われています。協議会の設立にあたっては、市が音頭をとったわけではなく、市民ボランティア団体や水の恩恵を受ける企業が積極的に関わり機運が高まったことにより設立に至ったとのこと。

同市の事例では、市民ボランティア団体や企業、教育関係団体など多くの団体が積極的に関わって森林整備をされており、本市でも今後森林整備を進めるにあたって大いに参考となるものでした。

特別委員会の動き

西九州自動車道整備促進特別委員会

伊万里・平戸・松浦市議会・佐々町議会西九州自動車道建設促進協議会の活動計画に基づき、去る11月20日に国土交通省九州地方整備局長に對して、また、12月2日及び3日には国土交通省、財務省及び自民党本部並びに長崎・佐賀両県選出国會議員に對して、唐津伊万里道路、伊万里道路、伊万里松浦道路、松浦佐々道路の事業促進と早期完成及び道路整備予算の安定的な財源確保について要望を行いました。



自民党へ要望



国会議員へ要望



財務省へ要望



国土交通省へ要望